

スローアートの定義はない。

今、目の前におこっていることを本気でゆっくり楽しむこと、
自分を取り巻く足元の世界を新しい目で再確認すること。(Chaco Kato)

8/7(土) 日比野克彦ワークショップ

8/12(木)・13(金) 加藤チャコワークショップ

日比野克彦ワークショップ

みんなで作りませんか? 「天馬の FUNE の水辺」 8月7日(土) 13:30~16:30 参加費 500円



木造和船 天馬船があるヒミング A.C. 前の水辺。水の煌めきや、チャポンチャポンという波の音が聞こえる、この場所を、自分達が楽しめてくつろげる、夢のある場所にしませんか!

今回のワークショップでは、そのプランづくりとして、日比野克彦さんと一緒に、川と川底、川と橋、川と船・・・などなどのテーマで水辺を自由に思い描きます。子供から大人まで参加可。

【水辺の整備を行いワークショップの準備を行うサポーターも募集します】

同時開催 将来クリエイティブな仕事をしたい人のための本当の話コース

vol. 1 日比野克彦レクチャー&話す会 (東京藝術大学教授、アーティスト)

8月6日(金) 14:00~16:00 場所:ヒミング A.C. 参加費:初回特別料金 500円

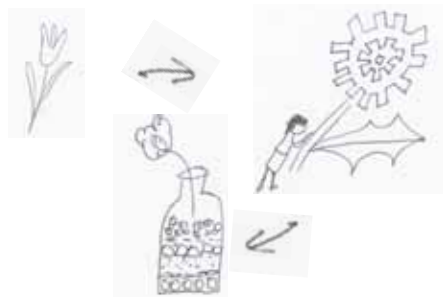
対象:中学~大学生、もしくはクリエイティブな仕事をしたい人

加藤チャコワークショップ 13:30~15:30 参加費 500円

「草花壁絵」 8月12日(木) 「ブリージングソイル:ミニコンポスト作り」 8月13日(金)

氷見の野山や道ばたから名のないたくさんの草や花を摘み、それを使ってヒミングアートセンターの壁に氷見の風景や草花をデザインにとりこんだ大きな壁画をつくります。

最後に余った草花とお茶会の残りを使って、小さなコンポストアートを作ります。



加藤チャコ展覧会 「草と花の氷見」

期間:8月21日(土)~11月14日(日)の土曜・日曜


8月上旬、氷見の草花を摘み、その茎などを使って加藤さんの手で繊細に描かれた壁画を公開展示します。

【野山の整備を行い作品制作の草を集めるサポーターも募集します】

場所:ヒミング A.C. (氷見市北大町 7-6)

お申し込み:090-3886-7669 info@himming.jp

| | |
|---|--------|
| 土 | 31 |
| 日 | 1 |
| | 2 |
| | 3 |
| | 4 |
| | 5 |
| 金 | 6 |
| 土 | 7 |
| 日 | 8 |
| | 9 |
| | 10 |
| | 11 |
| 木 | 12 |
| 金 | 13 |
| | 14 |
| | 15 |
| | 16 |
| | 17 |
| | 18 |
| | 19 |
| | 20 |
| 土 | 21 |
| 日 | 22 |
| | 23 |
| | 24 |
| | 25 |
| | 26 |
| | 27 |
| 土 | 28 |
| 日 | 29 |
| | ・毎週木曜日 |
| | ・1 |
| | ・2 |
| | ・3 |
| | ・4 |
| | ・5 |
| | ・6 |
| | ・7 |
| | ・8 |
| | ・9 |
| | ・10 |
| | ・11 |
| | ・12 |
| | ・13 |
| | ・14 |
| | ・15 |
| | ・16 |
| | ・17 |
| | ・18 |
| | ・19 |
| | ・20 |
| | ・21 |
| | ・22 |
| | ・23 |
| | ・24 |
| | ・25 |
| | ・26 |
| | ・27 |
| | ・28 |
| | ・29 |
| | ・30 |
| | ・31 |

主催：特定非営利活動法人アート NPO ヒミング 
助成：平成 22 年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

セブンスールの基金
— 1999年設立 七瀬七瀬記念財団

お申し込み/お問い合わせ：090-3886-7669 info@himming.jp



日比野克彦 アーティスト 岐阜市生まれ。

80年代に領域横断的、時代を反映した作風で注目される。作品制作のほか、パフォーマンスなど身体を媒体にした表現も自己の可能性を追求し続ける。1986年シドニー・ビエンナーレ、1995年ヴェネチア・ビエンナーレに出品。2005年水戸芸術館現代美術センター (HIBINO EXPO)、2007年金沢21世紀美術館(「ホーム→アンド←アウェー」方式)、熊本市現代美術館 (HIGO BY_ HIBINO) などで個展を開催し好評を博す。2008年金沢21世紀美術館と(「ホーム→アンド←アウェー」方式 meets NODA[But-a-I])、2009年東京芸術劇場に [But-a-I] という舞台空間を組み、美術館と劇場と街を行き来する実験的な試みを仕掛ける。「開国博 Y150」(横浜)にて「横浜 FUNE プロジェクト」監修。2010年はサッカー W 杯の会場・南アフリカへたくさんの人と作り上げた MATCH FLAG を届け、スタジアムでムーブメントを起こした。瀬戸内国際芸術祭では、瀬戸内の海底に焦点をあてたプロジェクトを長い期間を掛けて展開する予定。8年目を迎える「明後日朝顔プロジェクト」など、精力的に全国を駆け回っては、受取り手の感受する力に焦点を当て、様々な地域の参加者と共同制作を行いながら社会で芸術が機能する仕組みを創出する。



加藤チャコ：仙台市生まれ。1996年よりメルボルン在住。

1989年ボストン美術館附属美術学校卒業し、1991年から1年間、仏政府給費生としてパリ・シテデザールのレジデンスに滞在。1996年6月渡豪、メルボルンの美術大学修士課程を修める。主な企画展覧会に、'Embodied Energy' クーナハン美術館(2008年)、'デビルバンド' (2007年)、'エンティス' (2001年)いずれもモーニントン半島美術館、など多数。2009年にスローアートコレクティブを結成、TS2 (インシネレーターアートセンター)、Watershed (アートプレイ：メルボルン市とのコミッションで)など、リサイクル素材などを使って、持続可能性を追求した大きなインスタレーションを手がけている。またメルボルンのバニユル市の環境庭園、ムーニーバレー市のリサイクルデポにコンポストを題材にした作品がパブリックコレクションとしておかれている。現在はメルボルン近郊にある緑豊かなダンテノン山脈国立公園の麓に、文筆家の夫と2人の子供達、ネコ、にわとり達とともに暮らし、「自分の足元でひそかにくりひろげられる有機的な世界」をテーマとした作品をつくりだしている



<http://www.himming.jp/>